

1	名古屋	宝神中学校	あらかわ ひろな 荒川 広奈
分科会番号	8	文科会名	音楽教育

主体的・協働的に思いや意図をもって音楽表現を工夫することができる生徒の育成

1 研究のねらい

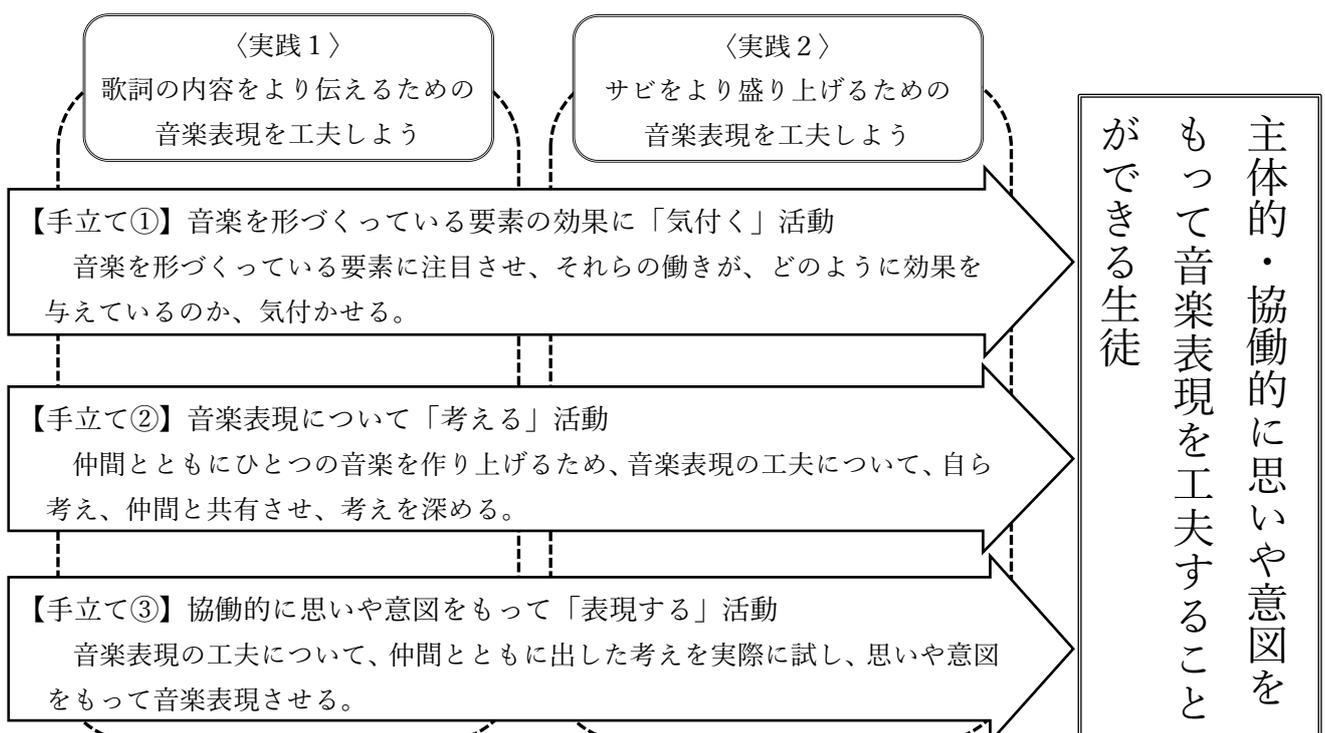
私は、主体的・協働的に思いや意図をもって音楽表現を工夫することができる生徒を育てたい。主体的・協働的に思いや意図をもって音楽表現を工夫することができる生徒とは、自らその曲のよさや特徴を捉えて、思いや意図をもち、それらを仲間と共有し、音楽表現を工夫することができる生徒である。その曲のよさや特徴を捉えるには、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じることが大切である。そして、思いや意図をもって音楽表現を工夫するには、知覚・感受したことを基に曲想と歌詞の内容を関わらせ、どのように表現するとよいか考えることが大切である。

本校の生徒は、音楽の授業で、積極的に声を出して歌う姿が多く見られる。また、音楽が得意な生徒は、音楽が苦手な生徒も巻き込んで合唱やパート練習に取り組むことができる。しかし、それぞれのパートの正しい音程で歌いきることによって満足してしまう生徒が多く、曲想の変化を感じ取ったり、音楽記号を読み取ったりして、音楽表現を工夫することができない。また、歌詞の内容と関わらせて、何を音楽で表現したいのか、考えることができない。

そこで本研究では、音楽を形づくっている要素に注目して、歌詞の内容と関わらせて、音楽表現を工夫することができるようになるための活動を工夫する。これらの活動を通して、目指す生徒像に迫りたい。

2 研究の内容

- (1) 研究の対象 中学2年生
- (2) 研究の手立てと実践計画



3 実践の経過

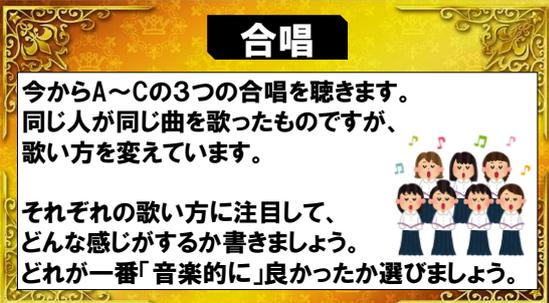
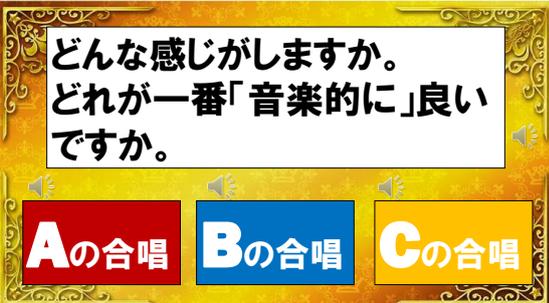
〈実践1〉歌詞の内容をより伝えるための音楽表現を工夫しよう

教材：合唱曲「時を越えて」

(1) ねらい

作詞者作曲者が伝えたいことを音楽で表現するためには、どう歌うとより伝わるかを考えることができる。

(2) 実践1の様子

学習活動 (○) と教師の働きかけ (・)	生徒の様子								
<p>【手立て①】「気付く」活動</p> <p>○ 同じ人、同じ曲を歌ったもので、歌い方の違いに注目して聴き比べ、A～Cのうちどれが一番「音楽的に」良いかを考える。</p> <p>○ A～Cのそれぞれ「どんな感じがするか、どんな歌い方をしているか」について聴き取ったことをプリントに記入する。</p> <div data-bbox="188 828 737 1131">  <p>合唱</p> <p>今からA～Cの3つの合唱を聴きます。同じ人が同じ曲を歌ったものですが、歌い方を変えています。</p> <p>それぞれの歌い方に注目して、どんな感じがするか書きましょう。どれが一番「音楽的に」良かったか選びましょう。</p> </div> <div data-bbox="188 1164 737 1467">  <p>どんな感じがしますか。どれが一番「音楽的に」良いですか。</p> <p>Aの合唱 Bの合唱 Cの合唱</p> </div> <p>A：全て強く歌ったもの B：全て弱く歌ったもの C：強弱の変化をつけて歌ったもの</p> <p>・ 生徒がA～Cそれぞれ選んだ理由を全体で共有した。</p> <div data-bbox="220 1747 715 2027">  <p>Cを選んだみなさんは一流中学生です！！</p> </div>	<p>【生徒のワークシートの記述内容】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>○をつける</th> <th>どんな感じがするか、どんな歌い方をしているか</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>あまり感情がのってないかんじ。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>Aよりも感情がのってない、少し声がかたい。</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="radio"/> C</td> <td>いまかいかいAとBよりもあるかんじがする、強弱がはっきりしている。</td> </tr> </tbody> </table> <p>【Cを選んだ生徒の発言】</p> <p>強弱の変化があるCの方が、かっこよかったよ</p> <div data-bbox="798 918 1324 1265">  </div> <p>AとBは、ずっと同じ強弱だったけど、Cはクレッシェンドがあり、強弱が変化していたからメリハリがあったよ</p> <p>【BやCを選んだ生徒の発言】</p> <div data-bbox="790 1456 1204 1758">  </div> <p>Bの方の音程が正しく聴こえた気がしたんだけど・・・</p> <div data-bbox="981 1758 1428 2060">  </div> <p>Aが一番声量が大きく聞いた気がしたよ</p>	○をつける	どんな感じがするか、どんな歌い方をしているか	A	あまり感情がのってないかんじ。	B	Aよりも感情がのってない、少し声がかたい。	<input checked="" type="radio"/> C	いまかいかいAとBよりもあるかんじがする、強弱がはっきりしている。
○をつける	どんな感じがするか、どんな歌い方をしているか								
A	あまり感情がのってないかんじ。								
B	Aよりも感情がのってない、少し声がかたい。								
<input checked="" type="radio"/> C	いまかいかいAとBよりもあるかんじがする、強弱がはっきりしている。								

- ・ 強弱の変化によって聴き手に与える印象が変わることを体験させ、表現を工夫することの重要性を確認した。

【手立て②】「考える」活動

- 「時を越えて」の『この日の喜びとこの日の悔しさを』の部分で、作詞作曲した人は何を伝えたいのか考える。

- ・ 作詞作曲した人が伝えなかったことを踏まえて、この部分では『喜び』と『悔しさ』の2つの感情を音楽で表現することが大切であると確認した。

- 『喜び』や『悔しさ』という感情を聴き手に伝えるためには、どう歌うとよいかを考え、話し合う。

- ・ 【手立て①】で使用したCの歌を例に、「ただ強く歌っているもの」と「発音を意識して歌ったもの」を聴き比べ、伝えたいものと表現方法の関連について注目させた。

考えるためのキーポイント
「裏切るなら!」「神話になれ!」

- ① この部分で作詞作曲した人はどんなことを伝えたいのか。 **強い思い**

- ② ①を伝えるためにどう表現するといいか。
**ひとつずつはきはき発音する。
腹筋を使って発声の勢をつける。**

- ・ 楽譜に書かれた音楽記号をヒントにして、「強弱」をつけて歌うとよいことを確認した。
- ・ 強弱は声の大きさだけで表現するのではないことを、身の回りのできごとを題材にして違いに注目させた。

工夫するポイント
「この日の喜びとこの日の悔しさを」

喜び…強く歌う **これだけでいいの?**
悔しさ…弱く歌う

**音量だけでは、感情は伝わりにくい!
「言い方」が重要!!**

【生徒のワークシートの記述内容】

自分の考え 今回の話の1行は、静しいことあったから「うらやましい」
この意味は悔しさを意味する自分の生きているうちに何かあると気がから、
とんがことあったも、前を聞いて、生きている。

【話し合い活動中の生徒の様子】



強弱が大事なのはわかるけど、「歌い方」の工夫について考えるのは難しい・・・



『喜び』を「表情」で表したらどうだろう？



確かに「弱い」の中にも「ヒソヒソ話をする時」と「聞こえないくらい小さく話をする時」では、何か違うよね

【生徒のワークシートの記述内容】

自分の考え よろこぶの部分は大げさに強く歌う。と、やさしいところは、弱く歌う。「うらやましい」と「やさしい」の部分は、よほど低く話して大げさに歌う。



話し合い② 弱く中でも「やさしい」で歌う。子音をはっきり発音して「やさしい」と表現する。
③ 表情を入れる。

【手立て③】「表現する」活動

- 表現の工夫について出た意見をもとに、歌い方の変化をつけて実際に歌う。
 - ・ 「感情」と「強弱」の関わりを改めて確認し、強弱の差をはっきりつけて歌うように伝えた。
 - ・ 『喜び』と『悲しみ』を表す表情とは、それぞれどんな表情なのか確認した。
 - ・ 悔しい気持ちをより表現するために、「悔しさ」の「く (Ku)」の子音を立てて発音するように伝えた。

【表情を確認している生徒の様子】



(3) 実践1を終えて

手立て①の「気付く」活動では、生徒に気付かせるためにクイズ番組のような授業の展開を行ったことにより、生徒たちに興味をもたせることができた。それにより、これまでは授業者の指示により強弱をつけて歌っていたが、生徒たちは今まで以上に強弱への理解が深まり、その効果に気付くことができた。しかし、手立て②の「考える」活動では、強弱の効果に気付いてはいるが、自分の考えをもつことができず、仲間に自分の意見を伝えることができない生徒が散見された。自分の考えをもつことができている、グループ内で共有することでとどまり、仲間とともにさらに考えを深めていくことができる生徒が少なかった。また、生徒が出した意見のうち一部しか全体で共有することができなかった。そのため、手立て③の「表現する」活動では、生徒が考えた表現方法を共有し、実際に表現する（歌う）活動ができず、教師が導きたい方向へまとめる時間となってしまった。実践2に向けて、手立て②と手立て③の工夫をしていく必要がある。

〈実践2〉サビをより盛り上げるための音楽表現を工夫しよう 教材：合唱曲「時を越えて」

(1) ねらい

サビの部分をより豊かに表現するためには、サビに繋げる部分でどう強弱をつけるとよいかを考え、表現することができる。

(2) 実践2の様子

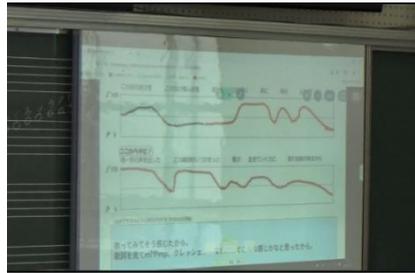
学習活動 (○) と教師の働きかけ (・)	生徒の様子
<p>【手立て①】「気付く」活動</p> <p>○ 2つの異なるメロディを聴き、どちらが「盛り上がりそう」かを考え、そう感じた理由をロイロノートに記述する。(A:ピンクのカード、B:水色のカード)</p> <p>A: 同じ音型ばかりが連続しているもの</p> <p>B: 言葉の区切りごとに音型が高くなるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使っている音源は、電子音であるため強弱を全くつけていないことを確認した。 ・ 生徒がそれぞれ選んだ理由を全体で共有した。 	<p>【ロイロノートの記述内容】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; background-color: #e0f0ff; padding: 5px;"> <p>だんだん音が高くなって+音もだんだん大きくなるリズムカルでいい感じ</p> <p>ピンクは一定の音が多くて盛り上がりにくいと思うあとリズムも一定</p> </div> <div style="width: 45%; background-color: #e0f0ff; padding: 5px;"> <p>Bは、音が多くて、上がっていい感じと、伴奏の音が多かったから。Aより楽しそうで惹かれた。Aは同じ音が多かったし、伴奏も音が少なかった。盛り上がるのはBだと思う。</p> </div> </div> <div style="background-color: #e0f0ff; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>高い音がたくさんあるから。そしてAは結構連打してるけどこっちはなめらかで後半から盛り上がりそうだから選んだ。</p> </div>

【手立て③】「表現する」活動

- 【手立て②】で作成した強弱のグラフのよ
うに歌う。
 - ・ 生徒が書いたグラフの中から特徴のある
グラフをいくつか提示した。
 - ・ 歌った後に、「自然にサビへ繋げ、サビ
を盛り上げることができたか」を振り返ら
せた。
 - ・ サビの直前の『胸に刻み込もう』の部分
で、よりサビを盛り上げるための工夫をし
ている生徒のグラフを見せ、強弱記号に書
かれていない部分の工夫に着目させた。



【生徒が書いたグラフをスクリーンに映す】



【グラフを見て、強弱を付けて歌っている生徒】



この強弱の付け方だと不自然だな…！
サビに上手く繋がらないよ！！

(3) 実践2を終えて

手立て②の「考える」活動では、自分の考えをもつことが苦手な生徒にも考えやすくするために、グラフを活用したことで、多くの生徒が強弱の付け方の工夫について考えをもつことができた。そのため、グループで共有する際に、ただ仲間の意見を聞くだけでとどまる生徒が減り、多くの生徒が自分の意見を仲間に伝えることができた。手立て③の「表現する」活動では、多くの生徒が仲間の書いたグラフに興味をもち、グラフに書かれた強弱の変化を再現することができた。自分たちで工夫したことを実際に歌って試してみることで、グラフで書くだけでは気付くことができない「作曲者が意図した自然な音楽の流れ」を体感することができた。しかし、手立て①の「気付く」活動で触れた「音の高さが高くなっていたり、同じフレーズが繰り返されていたりしていること」と「強弱」の関わりについて、強弱の工夫に応用して考えることができる生徒が少なかった。

4 研究のまとめ

手立て①の「気付く」活動では、既習事項である音楽記号の読み方や意味などの知識が、歌詞や音型とどう関わり合うのかを理解させることができた。また、その要素がどのような特質や雰囲気を生み出しているのか、どのような効果を与えているのか、感受させることができた。手立て②「考える」活動では、今までは教師が与えていた「どう音楽で表現するか」について、歌詞から読み取った感情を聴き手に伝えるためにどう表現すると良いのかを、生徒が自ら考えることができた。手立て③の「表現する」活動では生徒たちに、表現したいことを聴き手に伝えるための歌い方について、表情や言葉の発音、強弱の変化の付け方に着目して工夫させることができた。

しかし、「考える」活動では、自分の考えをグループ内で発表し合い、共有することはできても、議論をし、さらに自分の考えを深めさせることができなかった生徒が一定数いた。その背景には、議論をするための自分の意見を明確にもっていない生徒が多いことが挙げられる。生徒が「考え」を「言語化」する活動が十分ではなかったため、今後は、仲間の考えを取り入れ、もう一度自分の考えを深める時間を設ける等「協働的」な活動を工夫し、思いや意図をもって音楽表現を工夫することができる生徒を育てていきたい。